

まちづくり交付金 事後評価シート
綺羅街道地区

平成19年3月

北海道ニセコ町

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	ニセコ町	地区名	綺羅街道地区
計画期間	平成16年度～平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成18年度		
モニタリング実施時期		事後評価実施時期	平成18年4月～平成19年3月	フォローアップ実施時期	平成19年4月ごろ

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	地域生活基盤施設：ニセコ駅前広場整備事業、ニセコピューブラザ中庭整備改修事業
	当初計画から変更した事業 (変更した内容)	高質空間形成施設：ニセコ町綺羅街道街路灯整備工事(0 街路灯14基設置)、既存建造物活用事業：駅前倉庫の活用(取りやめ)、地域創造支援事業：道の駅ニセコピューブラザ機能強化事業(機能向上工事による事業費増)、観光情報端末機設置事業(取りやめ)、公衆無線LAN設置事業(0 1基)、事業活用調査：事業評価や今後のまちづくり方策等について学識経験者等から意見聴取
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	ニセコ町綺羅街道街路灯整備工事：道の駅から綺羅街道への誘導(目標・数値指標への影響はなし)、駅前倉庫の活用：用地交渉不成立(目標・数値指標への影響なし)、道の駅ニセコピューブラザ機能強化事業：情報提供の強化、施設の手狭等(目標・数値指標への影響なし)

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
		単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	観光客入込客数	人/年						構想段階から住民参加のもとに計画が進められ、ニセコ駅から道の駅までが町のメインストリートという認識が広まった。
指標2	綺羅街道入込客数	人/年						実施事業は少なからず、指標達成に効果を発揮したと考えるが、そもそも綺羅街道の入込み数の把握が難しく、その効果を表しがたい状態
指標3	循環バス乗車率の向上	%						バス運行の側から、観光的な利用の取り組みが充分ではなく、効果の発現には至らなかった。
指標4								
指標5								

3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
		単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
その他の数値指標1	ニセコピューブラザ利用者数 【指標1：観光客入込客数の代替】	人/年	609,749	H14		699,304		ピューブラザの整備により、当該施設の入館者数は着実に伸びている。道の駅を中心とする賑わいは明らかに再生しつつある。
その他の数値指標2								
その他の数値指標3								

4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況
ニセコ駅及びニセコピューブラザの整備、機能強化により新たなビジネスが進出し、賑わいが再生している。ニセコ駅では、アウトドア事業者が駅横に事務所を構えるようになった。また、ニセコピューブラザでは、ここ数年で飲食店をはじめとする商店が6店以上進出し、ニセコ町規模の自治体としては異例の状況と思われる。総務省「平成16年度事業所・企業統計調査」を基にした「市町村別民営事業所従業者数の変化率上位100位(全国)」の調査で、ニセコ町が82位となっている。また、綺羅街道の植栽を行うニセコ花フェスタ実行委員会は、その活動を発展させ、平成17年7月には「NPO法人ニセコまちづくりフォーラム」へと進展した。

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
			予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	
住民参加プロセス		*ニセコ駅前広場整備検討委員会	予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	ニセコ町まちづくり基本条例により、重要な事業の実施などについては住民参加が進めることが原則となっている。当該委員会等は終了しているが、必要があれば改めて住民参加により検討を進める。
		*綺羅街道街路灯整備に関する住民検討会議	予定どおり実施できた	予定していなかったが実施した	予定したが実施しなかった・できなかった	
		景観を中心としたNPOの構築	予定どおり構築できた	予定していなかったが構築した	予定したが構築しなかった・できなかった	
持続的なまちづくり			予定どおり構築できた	予定していなかったが構築した	予定したが構築しなかった・できなかった	NPO法人ニセコまちづくりフォーラムへの支援継続を検討する。

様式2-2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

綺羅街道地区(北海道ニセコ町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	ニセコ駅前周辺と観光情報の拠点地整備におけるニセコ観光の賑わいの再生	まちづくり交付金の代表的成果	観光入込客数(単位:人/年)	1,403,500(H10)	1,439,400(H14)	1,547,503(H18)
			循環バス乗車率の向上(%)	6(H14)	7(H18)	
			ニセコビュープラザ利用者数(人/年)	519,434(H10)	609,749(H14)	699,304(H18)

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

道の駅の更なる利用者増加
 本事業の完成により、道の駅のハード面はほぼ整備された。道の駅には現在、全国で初めて株式会社化した「ニセコリゾート観光協会」と農家で組織する「ニセコビュープラザ直売会」の2団体が店舗を構えて営業を行っている。この両団体(会社)が今後も、各々の事業を発展させることで、道の駅の振興、延いてはニセコ町産業の振興に大きく寄与することとなる。
 直売会は、今後も道の駅を拠点とし、地域のホテルやペンション、学校給食との連携を深め、地産地消を強力に推し進める。観光協会は、情報発信と内部連携を強化し、ウェルカム事業に力を入れ、綺羅街道への誘客をはじめ、観光客等の一層の集客を図る。

駅前の振興・発展
 駅周辺はニセコ大橋の建設以来、通過者が激減し寂れた状況にあった。本事業の完成により、ニセコ駅前の整備が終了した。このことで、駅周辺の交通アクセスが規則的となり、駅前の利用が快適となった。駅前温泉綺羅乃湯など既存企業や商店等との連携により、今後はソフトの振興が重要である。ニセコ駅から道の駅までを一連のメインストリートと見立て、相互の連携により、駅前の一層の振興が必要である。

綺羅街道の活用
 これまでの綺羅街道を舞台に花づくりを行ってきた団体がNPOに発展した。このNPOとの連携協力により、綺羅街道の活用方法の再検討が必要である。

循環バスの運行見直し
 町内5系統(早朝7系統)の運行を行う循環バスの、観光利用の促進などを含め、効率的な運行を検討する。